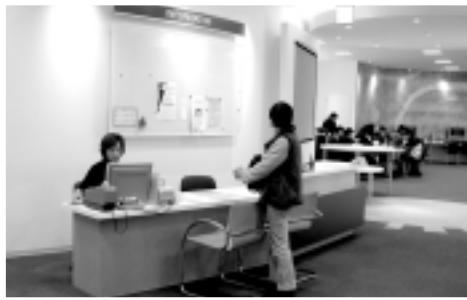


大型画面を使って行われた『年賀状作り講習会』



使用料は無料、定休日は毎週木曜日



真剣なまなざしでパソコン画面を見つめる小学生



パソコン教室の復習にセンターを利用



佐々木英一さん

中央町の佐々木英一さんはセンターの常連さんの一人。登別地方高等職業訓練校が主催する市民パソコン教室の受講がきっかけでパソコンへの興味が高まりました。

「若いクラスメートはマスターするのが速いのですが、私は50代半ばという年齢のためなのか覚えにくかったものですから、授業の復習を兼ねてセンターを利用していただきました」

佐々木さんは努力が実り、このほど『表計算技士』と『ワープロ技士』の3級の資格を取得。「将来的には自分のパソコンを持ちたいと思っていますが、さらに上の資格を目指して勉強するため、これからもセンターを利用していききたいですね」と話していました。

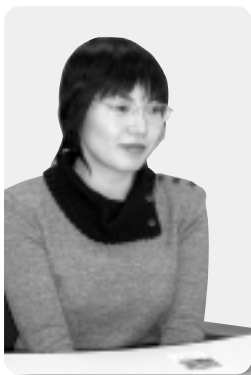
他市の友人がうらやむ施設

市民が気軽にインターネットを体

験できるのがこのセンターの大きな特徴ですが、利用される方はインターネットを使ってどんなことをしているのでしょうか。

「自分の好きな作家の最新情報などを検索しています」と活用方法の一端を披露するのは片倉町の秋葉里美さん。仕事の帰りにしばしばセンターに立ち寄るといふ秋葉さんは「気になった音楽の歌い手を探したり、テレビドラマの挿入歌で好きになった曲を検索してアルバムを買おう際の参考にしています。このセンターは落ち着いてパソコンに向かうことが出来ますね」とセンターの静かな雰囲気の中でパソコンに向かう時間を大切にしています。

「登別にはこんなに便利な施設があつて他市の友人がうらやましがっていますよ」とちょっとぶり自慢そうにほほ笑んでいました。



秋葉 里美さん

パソコンが未体験でも気軽に訪れてみましょう

取材中、センターをよく利用する中学生が「おじさん、検索するとき

に使うYAHOOを『ヤホー』って読んじやダメだよ」「ボクらは理科の自由研究をしています。パソコンを使うと百科事典よりも早く調べられて楽ですよ」と慣れた手つきでキーボードをたたいているのを見ると、世代の違いからか少々戸惑いを感じてしまいます。

センターは、パソコンのことを何も知らない方やキーボードに一度も触ったことのない方でも気軽に立寄れる施設です。トラブル時の対応もスタッフがいるので安心です。

主婦の方が、買い物ついでに立ち寄って、ちょっとパソコンに触れてみるのもいいでしょう。インターネットからは、総理大臣の動向から家庭料理のレシピまで、いろんな情報が得られます。必要であれば、有料ですが印刷もしてくれます。

また、例えばパソコンの表計算を使って、金融機関からお金を借りる前に複利計算をしてみたいかがでしよう。膨大な金額になって驚くかも知れません。

公共施設は、多くの方が利用してこそ、その価値が上がるのだと思います。私たち市民も、最新の情報機器を取り揃えたこのセンターを、これからもっと利用していきたいものです。

問い合わせ 地域情報センター

(☎812182)

あなたも市民リポーターになって、市内の話題やまちの動きなどをリポートしてみませんか。平成15年度市民リポーターについての申し込み・問い合わせは情報推進課(広報広聴)(☎856586)まで。